

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	はなえみ学舎 あみこ (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 4日	～	令和7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 4日	～	令和7年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 24日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>&lt;認知能力の向上と集中力向上の観点&gt; 個々の学習進度や特性に合わせた柔軟な支援体制が整っています。静かな環境での1対1の学習支援や、視覚的教材の活用により、集中力の維持と学習意欲の向上を実現しています。特に、施設で準備したプリントや学校の課題のノート学習などの基礎学力向上に重点を置き、つまづきやすいポイントでの丁寧なフォローアップを行っています。また、学習の達成感を重視し、できたことを具体的に褒めることで、自己肯定感の向上にも繋がっています。</p>	<p>&lt;認知能力の向上と集中力向上の観点&gt; 学習環境の調整や、学習時間の柔軟な設定により、児童が最も集中できる状態での学習を支援しています。また、視覚的支援ツールの活用や、児童の興味・関心に基づいた教材選択により、学習への動機付けを高めています。特に、漢字学習ではアプリを活用した筆順確認や、計算では段階的な難易度設定など、個々の理解度に合わせた支援方法を工夫しています。</p>	<p>&lt;認知能力の向上と集中力向上の観点&gt; 学習面での個別支援をさらに充実させるため、デジタル教材の活用や、より多様な学習アプローチの導入を検討しています。また、学習の進捗状況を視覚化するツールの開発や、より効果的な褒め方・声かけの方法についての職員研修も計画しています。長期的な学習計画の立案と、定期的な評価システムの確立により、より体系的な支援体制の構築を目指します。</p>
2	<p>&lt;社会性・コミュニケーション能力の向上の観点&gt; 異年齢集団での活動を通じて、自然なコミュニケーション力の向上を図っています。特に「仲良しタイム」などの構造化された活動を通じて、ルールの理解や他者との関わり方を学ぶ機会を提供しています。また、調理実習やおやつ作りなどの共同活動を通じて、協調性や責任感を育むとともに、年少児への思いやり的心も育んでいます。感情コントロールが難しい場面では、適切なクールダウンの時間と場所を提供し、自己調整力の向上を支援しています。</p>	<p>&lt;社会性・コミュニケーション能力の向上の観点&gt; 社会性の育成において、段階的なアプローチを心がけています。まずは職員との1対1の関係構築から始め、徐々に小グループでの活動、さらには大きな集団での活動へと移行していきます。また、感情表現の方法や他者への伝え方について、ロールプレイやソーシャルスキルトレーニングを通じて具体的に学ぶ機会を設けています。活動前のルール確認や、視覚的な手がかりの提供により、見通しを持って活動に参加できるよう工夫しています。</p>	<p>&lt;社会性・コミュニケーション能力の向上の観点&gt; より効果的な社会性の育成のため、構造化された活動プログラムの開発や、個々の特性に応じたコミュニケーション支援ツールの導入を検討しています。また、保護者との連携をさらに強化し、家庭でも実践できるソーシャルスキルの般化を目指します。地域社会との交流機会の拡大や、実践的な場面での社会性スキルの活用機会の創出も計画しています。</p>
3	<p>&lt;創造性・身体機能の向上の観点&gt; 工作活動や調理実習、体育館での運動など、多様な創造的活動と身体活動を提供しています。特に、手先の巧緻性を高める細かい作業（レジン作り、折り紙、編み物など）や、全身を使った活動（ボルダリング、鬼ごっこ）を通じて、総合的な発達支援を行っています。また、これらの活動を通じて、達成感や自己効力感を味わう機会を提供し、自主性や創造性の育成にも力を入れています。</p>	<p>&lt;創造性・身体機能の向上の観点&gt; 活動の選択肢を豊富に用意し、児童の興味や発達段階に応じて適切な活動を提供できるよう工夫しています。また、創作活動では個々の想像力を活かせる自由度の高い課題設定を心がけ、試行錯誤する過程も大切にしています。運動活動においては、スモールステップでの目標設定により、成功体験を積み重ねられるよう配慮しています。安全面への配慮と、適切な休憩時間の確保により、無理のない活動展開を心がけています。</p>	<p>&lt;創造性・身体機能の向上の観点&gt; より多様な創造的活動のプログラム開発や、新しい運動プログラムの導入を検討しています。特に、センサープレイなどの感覚統合的な活動の充実や、季節に応じた活動内容の工夫を進めています。また、個々の興味や才能をさらに伸ばせるような専門的なプログラムの開発や、外部専門家との連携による活動の質の向上も目指しています。</p>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>&lt;学習支援の視点&gt; 個々の学習進度や理解度に合わせた支援を行っているものの、学習の記録や進捗管理が体系的に行われておらず、長期的な成長の可視化が不十分です。また、児童の集中力維持のための環境整備や、苦手分野への取り組みを促す効果的な指導方法の開発が不足しています。</p>	<p>&lt;学習支援の視点&gt; 個別の学習計画が十分に詳細化されておらず、定期的な見直しと調整が不足していることが要因として考えられます。また、児童の得意分野を活かしながら苦手分野への取り組みを促す指導方法が確立されていないことも課題となっています。</p>	<p>&lt;学習支援の視点&gt; 学習の記録や進捗管理をより体系的に行い、長期的な成長を可視化できるシステムの構築が必要です。また、個別の学習計画をより詳細に立て、定期的な見直しと調整を行うことで、より効果的な支援につなげることができます。</p>
2	<p>&lt;生活支援・社会性&gt; 児童の感情コントロールや自己表現力を育むための系統的なソーシャルスキルトレーニングが不足しています。また、集団活動と個別の課題に応じた支援プログラムの充実が必要です。</p>	<p>&lt;生活支援・社会性&gt; 保護者との連携が十分でないため、家庭での様子や課題の共有が不足しており、一貫した支援を提供できる体制が整っていないことが要因として考えられます。また、集団活動における個別のニーズへの対応が不十分です。</p>	<p>&lt;生活支援・社会性&gt; 保護者との連携をより密にし、家庭での様子や課題を共有しながら、一貫した支援を提供できる体制づくりを進める必要があります。また、個別の課題に応じた支援プログラムの充実も重要です。</p>
3	<p>&lt;活動・余暇支援&gt; 活動プログラムの多様性が不足しており、児童の発達段階や興味に応じた活動のカスタマイズが十分ではありません。また、活動を通じた学びや成長の機会の設定が意識的に行われていません。</p>	<p>&lt;活動・余暇支援&gt; 活動プログラムの開発が不十分で、支援目標との連携が弱いことが要因として考えられます。また、季節や行事に応じた特別活動の充実や、地域資源を活用した活動の展開が不足しています。</p>	<p>&lt;活動・余暇支援&gt; より多様な活動プログラムの開発と、児童の発達段階や興味に応じた活動のカスタマイズが必要です。また、活動を通じた学びや成長の機会をより意識的に設定し、支援目標との連携を強化することも重要です。さらに、季節や行事に応じた特別活動の充実や、地域資源を活用した活動の展開など、より豊かな経験を提供できる環境づくりを進める必要があります。</p>